



鹿沼市認定

鹿沼の名匠

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する“鹿沼の名匠”。
鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気を紹介します。

vol.24

建具製作

おぎはら有限会社

おぎはら

かずお

荻原 一雄さん（麻芋町）

プロフィール

昭和43年、麻芋町生まれ。現在3代目。関連事業者も認める腕の確かさで、現在は鹿沼建具商工組合の理事も務めている。

昭

和40年に創業した「おぎはら有限会社」は、当初家具製作の会社でした。時代のニーズに合わせ、先代から建具屋になり、荻原さんはその3代目。「物心ついたときから木が身の回りにあり、自然とこの道に進んだ」と語る荻原さん。祖父や父の見よう見まねで、技術を習得してきたそうです。

建

具はドアや窓、襖など、空間を仕切るもので、人の出入り・採光・換気などを目的に用いられます。「建具は脇役的な存在ですが、建物の表情にも関わってくるので、凛としていなければなりません。家に対しての引き立て役ですね」と建具への思いを語ります。



市民俳壇

異国語のあふる仲見世初詣

まず母の忌日記せり初暦

嶄然とメタセコイヤは冬の山

冬至の陽浴びるカップを写しけり

初詣青竹滲みるかつぽ酒

処理場の煙真つ直ぐ大旦

色付きて有を知らせし大銀杏

薄氷の割れ目の底に朱の鯉

市民歌壇

「会者定離」理知れど往く年に思いは深し友との
永別
黒川に白鳥飛来し越冬す北のたよりを翼に秘めて
琴にと集めしもみじ並べてはグラデーシヨンの妙を
楽しむ
西沢町 安達 和子

小林 夏江選

布川 武男選

名前（ふりがな・住所を明記し、はがき・メールで）応募ください。
締切は毎月20日（到着分）です。
〒328-6011 今宮町1-688-1
メール koho@city.kanuma.lg.jp
広報広聴係（応募部門を明記）



▶ 商売道具たち



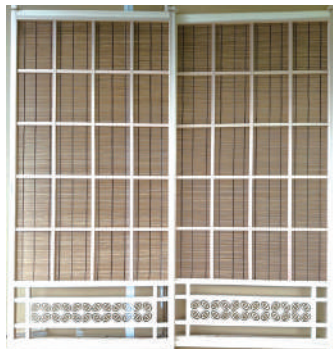
▶ ものづくりについて語る
荻原さん

障子の製作工程

①墨付け、②組み立て、
③仕上げ



▶ 新規に注文を受け製作した
夏障子



建

具（こ）では障子（づくり）は、木材から製品に使用するパーツを取り出す「木取り」から始まります。この工程では、部材の厚み・幅・長さを決め、加工します。その後「墨付け」といわれる、格子を作るための印を付け、鉋（かんな）で滑らかに仕上げます。加工したパーツを組み立て、コテや鉋を使い手作業で調整、調節していきます。障子は、紙貼り部分と組子が平らでないと障子紙が剥がれてしまうため、気を使うそうです。「実際に使うお客さんの顔を思い浮かべ、笑顔にできるようにものを作っていきたい」と荻原さん。また、工務店を通して感謝の言葉を伝えられたときは、やりがいを感じるそうです。

荻

原さんの腕に信頼をおく工務店を通して、歴史ある文化財の修復依頼など、県外から多くの問い合わせがあります。「デザイナーが想い描いたものを実物として形にするのが私の仕事です。より良い物になるよう提案もしつつ、製品にしていけます」とものづくりへのこだわりについて熱心に語られています。

今

後については、「時代の変化に応じて生活様式も変わると思うので、その変化に柔軟に対応していきたいですね。若い人にも好まれるデザイン格子戸の製作など、新規製作にも意欲的に取り組みたいと思います」と意気込みを語ります。

一年を大河ドラマに魅了され幽玄の時味わい尽くす

松原 伊東 里子

庭先につがいの雉子が舞い降りて草の芽啄む春は近かり

寺町 石田 忠

昼下がりにブチ贅沢の足湯には柚子がブカブカ香る

上野町 榎木 和子

一番星「じいちゃんみつけ」と指の先凍てつく空に

古賀志町 渡辺 雪子

初日の出拝みて希望わきて来し日のあたる道選び進まん

上野町 竹澤 光子

市民川柳

松本とまと選

カイロより温かい子のお年玉

加園 池田 大

からっぽの知識スマホで綱渡り

板荷 島田 ふみ

辛抱した枝に花咲く温い春

下沢 坂入ナツ恵

孫帰り静けさだけを置いて行く

塩山町 森野 静雄

ボー活が知らず知らずのボケ防止

旭が丘 杉山 進

訃報欄オレの歳より皆若い

下奈良部町 小野口 博

大はしゃぎほっとサロンの芋煮会

板荷 大貫 新一

新米の炊き立て香る黄金色

西茂呂 阿部 金司

アイドル・リーバス

お知らせ

完熟堆肥・ジュニア版画